

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：24402

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K21668

研究課題名（和文）仕事・住まい・福祉が連携するサービスハブによるハウジングセーフティネットの構想

研究課題名（英文）Towards Constructing a Housing Safety Net based on Service Hubs for Work, Housing and Welfare

研究代表者

水内 俊雄（Mizuuchi, Toshio）

大阪市立大学・都市研究プラザ・教授

研究者番号：60181880

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：ホームレス支援が居住福祉支援であることをメインの研究対象としてきたが、福祉依存の度合いが強いことを解消するために、就労とハウジングを結び付けた新たな働き方、住まい方の提唱を、もうひとつの基底のセーフティネットとして位置付け、それを実証する研究である。特に寮つき派遣業者が提供する社員寮や借り上げ住宅の役割を、建設業から広く製造業、第一次産業に拡げて、そのセーフティネット的機能を明らかにした。モバイルな就労とモバイルな居住という新しいコンセプトとの提案を行った。この領域において技能実習や特定技能の在留資格を有する外国人の実態調査を極めて親近性があることが判明し、今後の研究の必要性も明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

少なくとも寮付き派遣業者がセーフティネットとして不安定居住層に対して機能していることは事実であるが、そのための社会的認知が得られているとは言い難い。むしろ福祉業界においてはこの業界を避けてきた傾向が強い中、一部の生活困窮者自立支援の機関において派遣業を利用することが多くなり、また逆の事態も進行している。まずは積極的にこの実態を明らかにするのが急務であることは間違いない。その意味で時宜に合ったアドボカシー的研究であるとともに、業界のサービス改善や効果的な政策や啓発、そしてキャリア開発、能力開発、外国人雇用と重大な課題への実践的な関わりを、先頭を切って明らかにする研究となっている。

研究成果の概要（英文）：The main object of our research has been to support homelessness as housing welfare support, but in order to resolve the strong degree of dependence on welfare, we attempt to position the advocacy of new ways of working and living that link employment and housing as another basic safety net, and demonstrates this as such. In particular, the role of employee dormitories and rented housing provided by temporary employment agencies with dormitories was extended from the construction industry to the manufacturing and primary industries at large to clarify their safety-net function. A proposal was made for a new concept of mobile work and mobile residence. A survey of the actual situation of foreigners with technical training and specific skill status in this area was found to be extremely relevant, and the need for further research was also identified.

研究分野：人文地理学

キーワード：サービスハブ 中間ハウジング セーフティネット 社員寮 就労支援



の労働環境を整除化する意味でも非常に重要なタスクとなっていることが判明した。

第2に、象限に位置し、稼働能力がありながら就職困難や持続しない層への就労支援や、象限に位置する稼働能力が低いが生計自立できる層への社会的就労をセットにしたセーフティネット導入の提案である。

この調査は、誰が不安定居住者かという、政策のターゲットを確定するための基礎的資料ともなった。前者の就労支援については生活困窮者時・ホームレス自立支援システム、すなわち新しい一時生活支援事業のバックアップ事業ともなった。この調査も初年度より取り組んだ。後者については、社会的就労機会の開発であり、従来のホームレス自立支援センターのトータルシステムを更新し、新しい中間ハウジングの立て付けをソフト面で強化する調査ともなった。2年度目から調査を開始する予定であったがコロナ禍で十分には調査が進まなかった。基本的には就労支援とセットになる新しい仕事と福祉とハウジングのセーフティネット構想につながる部分となったが、この部分は従前には調査設計通り進まなかった。

第3に、象限に位置する必ずしも就労には繋がらないが、今後増大し続ける単身高齢者や生活困窮者の日常生活支援を実践する中間ハウジングのサービスハブ化の提案である。主に、生活保護法下で動く新たな立て付けである、日常生活支援施設のソフト面、ハード面でのバックアップ調査となり、これも次年度に調査をスタートした。

そして、全体的なアプローチとして、中間ハウジングの建物形態と地域での分布の広がりGISを利用した地理的検討をおこなった。迷惑施設論(NIMBY)との関連する支援の拠点立地の忌避にも遭遇するが、都市における最後のセーフティネットの存在の地理的あり方も検討、提案した。集中が望ましいのか分散がよいのか、このあたりの方向性は、都市それぞれのロカリティに依拠することになった。最終年のタスクとなったが、GIS地図を用いつつ、支援NPOや役所、住民とのワークショップも企画し、実施の一手前まで準備が完了した。

#### 4. 研究成果

本研究の最大のテーマは、「福祉による包摂」に加えて新たに発見した「就労による包摂」という、仕事・居住・福祉の三機能が補完しあうであろうそのメカニズムを明らかにすることであった。生活困窮自立支援の窓口から派遣仕事をつなぎ先として生活支援がある程度充実している企業への訪問ヒアリングや、農業部門での調査を精力的に行った。またコロナ禍の直撃を受けた生活娯楽産業における「就労による包摂」の実態も盛り場において実施した。ここから生まれたコンセプトが、「モバイルな就労」と「モバイルな居住」という新しい働き方であり、その可能性を探ることが、「就労による包摂」の新課題となった。

さらにもう一つの「就労による包摂」は、これは最終年度の調査の中で発見したことであるが、外国人の「特定技能」という在留資格所有者が、今後日本で定住するという過程において、「就労による包摂」が正しくキーになっていることと結びついたことであった。そのサービスを提供するのが登録支援機関であり、伴走型支援の典型であることから、急きょこちらも調査対象とすることになった。

過年度の課題であった、「就労による包摂」が新しい働き方としてモバイルな就労が、キャリア形成として貯めとなっているのか、どういう能力形成が可能であるのか、そのためにどうい

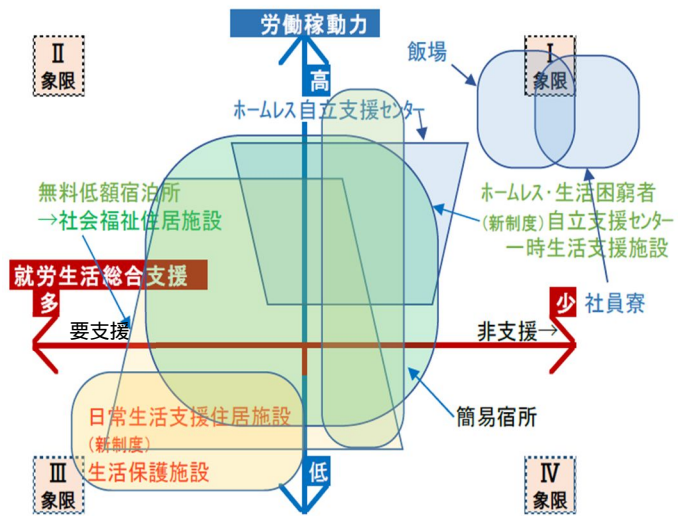


図3 福祉とハウジングと就労のサービスハブの4象限

職業開発が必要なのかを、北海道のある地方都市における水産加工業を中心とする派遣業者寮で就労しながら参与観察を実施し、この課題の検討を始めた。その結果として2割程度の層がこのモバイルな就労を自らの人生の享受の一環、ステップアップ、趣味の充実と絡めていたこと、しかし企業側においては、キャリア開発はもともと想定しておらず、第3者機関によるこうしたシステムが必要であるという認識に至った。これは歴史的には外国人の技能実習制度においてこの仕組みは内在化されており、今後の調査課題となった。

このように、当初設計で調査を始めたが、コロナ禍と帰れない外国人層に出会うことにより、新たな課題と、それをコンセプトとし、調査設計を再度ブラッシュアップするという刺激的な作業が続くことになり、継続して新たなデザインでの調査が必要となったことを付言しておく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 寺谷裕紀・水内俊雄・垣田裕介	4. 巻 -
2. 論文標題 寮付き人材派遣・業務請負業者が生活困窮者を支援する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 URP「先端的都市研究」シリーズ33『外国人・寮付き派遣労働者の地域生活を支える社会的インフラ コミュニティハブ概念の構築』	6. 最初と最後の頁 45-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 寺谷裕紀	4. 巻 -
2. 論文標題 寮付き人材派遣業者による労働者のサポートと労働者の生活	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 URP「先端的都市研究」シリーズ33『外国人・寮付き派遣労働者の地域生活を支える社会的インフラ コミュニティハブ概念の構築』	6. 最初と最後の頁 78-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 湯山篤・西野雄一郎・徳尾野徹・岸本嘉彦・岡本滋史・石山央樹・水内俊雄・上田光希	4. 巻 -
2. 論文標題 「林産業と福祉の連携によるレジリエントな中山間地域の賦活と経済循環の可能性の追求」プロジェクトの歩み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 URP「先端的都市研究」シリーズ35『紀伊半島の賦活に向けた 地域社会誌の試みと地理情報分析－和歌山県における実践を振り返る－』	6. 最初と最後の頁 57-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 水内俊雄	4. 巻 25
2. 論文標題 書評 山口恵子・青木秀男編著『グローバル化の中の都市貧困 大都市におけるホームレスの国際比較』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 貧困研究	6. 最初と最後の頁 113-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺拓也	4. 巻 30-31
2. 論文標題 大阪の公共空間の現在 都市下層をとりまく三つの出来事から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 寄せ場	6. 最初と最後の頁 91-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白波瀬達也・原口剛・渡辺拓也・北川由紀彦・西澤晃彦・結城翼・網島洋之	4. 巻 30-31
2. 論文標題 寄せ場はどこへ向かうのか 2017年8月28日寄せ場学会合同書評会	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 寄せ場	6. 最初と最後の頁 5-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺拓哉	4. 巻 12
2. 論文標題 野宿者運動における主体と都市空間の場所性 反ジェントリフィケーションと『路上コミュニティ』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 理論と動態	6. 最初と最後の頁 95-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺拓哉	4. 巻 47 (13)
2. 論文標題 まちづくりの落とし穴 反ジェントリフィケーションの釜ヶ崎	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 60-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺拓哉	4. 巻 782
2. 論文標題 ジェントリフィケーションに抗する まちづくりに捕らわれた釜ヶ崎へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 44-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水内俊雄	4. 巻 23
2. 論文標題 特集 新自由主義/ジェントリフィケーションに向きあってー序言ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 空間・社会・地理思想	6. 最初と最後の頁 165-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水内俊雄	4. 巻 204
2. 論文標題 インナーシティはジェントリフィケーションにどう向き合うか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 市政研究	6. 最初と最後の頁 30-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 渡辺拓哉
2. 発表標題 ジェントリフィケーションに飲まれる寄せ場で誰が労働者の言葉を語るのか、ラウンドテーブル1「都市/ポジショナリティ・質的調査」
3. 学会等名 日本都市社会学会第37回大会, 2019年9月5日, 専修大学.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水内俊雄、朱澤川、若林萌、小本修司
2. 発表標題 ジェントリフィケーションに関連する大都市の分極化に関する統計分析
3. 学会等名 第3回「包容力ある都市構想」研究会、大阪市立大学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 水内俊雄
2. 発表標題 Recent Progress of Unique Regeneration and Gentrification in the Global City
3. 学会等名 Travelling Conference on Urban Transformations in Industrial Regions, Osaka (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水内俊雄
2. 発表標題 Development of Social Inclusion Policy in Japan
3. 学会等名 "International Symposium: Visionary Cities , Inclusive Cities Tokyo Development Learning Center- TDLC, World Bank" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水内俊雄
2. 発表標題 Thematic Session 3: Eusuring economic inclusion
3. 学会等名 "Technical Deep Dive on Planning Safe and Inclusive in FCV Context May 15,2019 Nisinari Ward Office, Osaka, World Bank, TDLC" (国際学会)
4. 発表年 2019年



〔図書〕 計12件

1. 著者名 コルナトウスキ ヒェラルド・陸麗君	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪市立大学都市研究プラザ	5. 総ページ数 144
3. 書名 URP「先端的都市研究」シリーズ33『外国人・寮付き派遣労働者の地域生活を支える社会的インフラ コミュニティハブ概念の構築』	

1. 著者名 キーナー ヨハネス・水内俊雄	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪市立大学都市研究プラザ	5. 総ページ数 156
3. 書名 分極化する都市におけるサービスハブの変容とイノベーションの力学 ウィーン・大阪から学ぶ	

1. 著者名 陸 麗君・蕭 コウ偉・水内俊雄	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪市立大学都市研究プラザ	5. 総ページ数 142
3. 書名 大都市における人口構造の変化と空間の変容 コロナ禍前後の都心とその周辺部及び外国人集住地区に注目して	

1. 著者名 谷 富夫、稲月 正、高畑 幸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 440
3. 書名 社会再構築の挑戦 地域・多様性・未来、渡辺拓也、第7章 釜ヶ崎とジェントリフィケーション 下層労働のゆくえ、pp.101-115	

1. 著者名 全泓奎編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 346
3. 書名 分断都市から包摂都市へ 東アジアの福祉システム、水内俊雄・寺谷裕紀、大阪・東京大都市圏の分極化の動態と脆弱層に向けたサービスハブ地域の変容、pp230-248	

1. 著者名 キーナー ヨハネス・水内俊雄	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪市立大学都市研究プラザ	5. 総ページ数 156
3. 書名 分極化する都市におけるサービスハブの変容とイノベーションの力学 ウィーン・大阪から学ぶ、水内俊雄、寺谷裕紀、コロナ禍における生活困窮者自立支援現場の激変 「基底のセーフティネット」としての役割の変化を予測する	

1. 著者名 キーナー ヨハネス・水内俊雄	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪市立大学都市研究プラザ	5. 総ページ数 156
3. 書名 分極化する都市におけるサービスハブの変容とイノベーションの力学 ウィーン・大阪から学ぶ、奥村健・岡本友晴・水内俊雄、生活保護施設/あいりん体制を大阪市北部のサービスハブ地域から見る 1970年代中半から2010年代までを回顧して、105-135頁	

1. 著者名 陸 麗君・蕭 コウ偉・水内俊雄	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪市立大学都市研究プラザ	5. 総ページ数 142
3. 書名 大都市における人口構造の変化と空間の変容 コロナ禍前後の都心とその周辺部及び外国人集住地区に注目して、在日外国人による医療サービス利用の実態と課題 株式会社YOLO JAPANによるアンケート調査の分析から、41-56頁	

1. 著者名 岡井崇之編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 アーバンカルチャーズ 誘惑する都市文化、記憶する都市文化、渡辺拓哉 「釜ヶ崎の社会空間 寄せ場の文化を語ること」 51-62頁	

1. 著者名 山口恵子・青木秀男編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 418
3. 書名 グローバル化のなかの都市貧困 大都市におけるホームレスの国際比較 渡辺拓哉「2013年大阪、誰が、なぜホームレスとなったのか」 146-163頁	

1. 著者名 コロナトウスキ ヒェラルド・水内俊雄・福本拓 編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大阪市立大学都市研究プラザ	5. 総ページ数 308
3. 書名 「ジェントリフィケーション」を超えてー日独都市の住宅市場からみた地域の賦活とイノベーション	

1. 著者名 Edited by FUKUDA Tamami	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Osaka City University Repository	5. 総ページ数 103
3. 書名 "MATERIALITY, PEOPLE ' S EXPERIENCE AND MAKING GEOGRAPHICAL KNOWLEDGE MIZUUCHI Toshio "Development of Social Inclusion in Japan" pp.69-103"	

〔産業財産権〕

〔その他〕

都市研究プラザの刊行物、ブックレット27, 28号  
<https://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/publications-and-archives/booklet/>  
水内俊雄のホームページ  
<https://toshiomizuuchi.jimdofree.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡辺 拓也  (Watanabe Takuya)  (70622067)	特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・研究部・研究員    (95401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------